

JR東日本東京資源循環センターへの行き方 / JR品川駅・京急品川駅よりバスをご利用の場合

乗り場

都営バス 品川駅東口停留所
系統 / 品98「大田市場」行き

降車バス停

「丸全昭和前」降車 徒歩5分
※港湾地域に貨物車両が多くなるお昼以降は、バスの運行に
遅延が出る場合がありますので、ご注意ください。

受付窓口

「B棟 / 2F管理棟」まで
お越しください。



東京資源循環センター事業所

〒140-0003 東京都品川区八潮三丁目1番1号 (JR東日本東京資源循環センター内)
TEL 03-3790-1861 FAX 03-3790-1862

JR東日本東京資源循環センターは、
(株)JR東日本環境アクセスが運営しています。

「もっときれいに、もっとやさしく」

私たちがめざしているのは、人にやさしく、
自然にもやさしいサービスです。

JR東日本グループの一員として培った豊富な経験と確かな技術を活かし、
駅や駅ビルの清掃をはじめ、美しく、快適な、暮らしの豊かさを感じられる
生活空間づくりに取り組んでいます。



資源循環事業

資源循環型社会の実現に向けた世界規模での取り組みが進む今、
私たちは、独自の廃棄物処理とリサイクル技術で、
限りある資源の有効利用と廃棄物削減をめざしています。

株式会社 JR東日本環境アクセス
www.jea.co.jp

〒110-0015 東京都台東区東上野三丁目4番12号
TEL 03-3836-1551(代表) FAX 03-3835-9674

2010年10月 初版発行
2013年 4月 二刷
2015年 6月 三刷
2017年 8月 四刷
2019年12月 五刷

JR東日本東京資源循環センター

ご案内



株式会社 JR東日本環境アクセス
www.jea.co.jp

さまざまなごみの再資源化を行う JR東日本東京資源循環センター

一日あたり延べ1668万人のお客さまにご利用いただくJR東日本では、列車内や駅より年間でおよそ3万8千トンのごみが発生しています。そのほとんどが、新聞・雑誌や空き缶、ペットボトルといったリサイクル可能な資源です。JR東日本東京資源循環センターでは、こうしたさまざまなごみを、年間で約1万7700トン、1日あたり約63トン再資源化することができます。また、自治体より排出される一般廃棄物についても、併せて再資源化を行っています。(C棟)



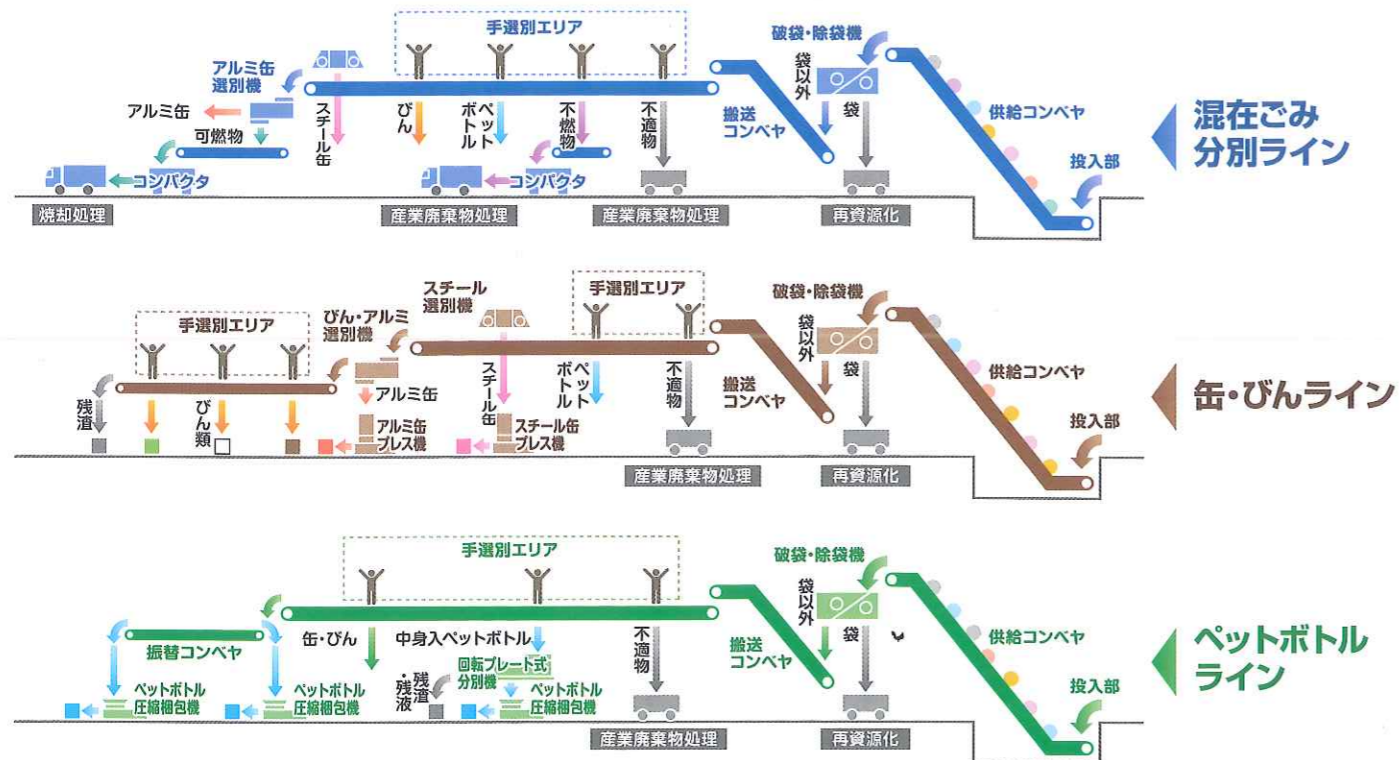
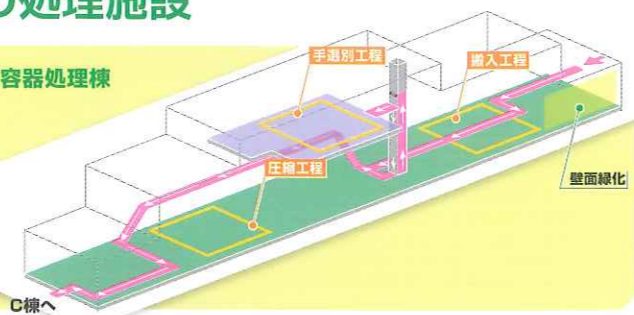
処理するごみの種類に特化した4つの処理施設

A棟

列車内より排出される混在ごみや駅の分別ボックスに捨てられた缶、びん、ペットボトルの分別および中間処理(圧縮)を行っています。

混在ごみおよび飲料容器処理棟
混在ごみ分別ライン
缶・びんライン
ペットボトルライン

産業廃棄物処分業許可番号 第13-20-000272号



貴重な資源を有効に活用

A・B・C・S棟の各設備を用いて再資源化された貴重な資源は、その後のリサイクルの行程を通じてさまざまな製品に生まれ変わります。アルミ缶は再びアルミ缶に、スチール缶は建築材料などに、色分けされたびんはガラス製品の材料として使われます。また、古紙はコピー用紙や新聞・雑誌、トイレトーパーに、発泡スチロールはプラスチック製品などに、ペットボトルは卵パックやクリアシートに再製品化されるほか、一部は繊維材料として制服などにも使われます。

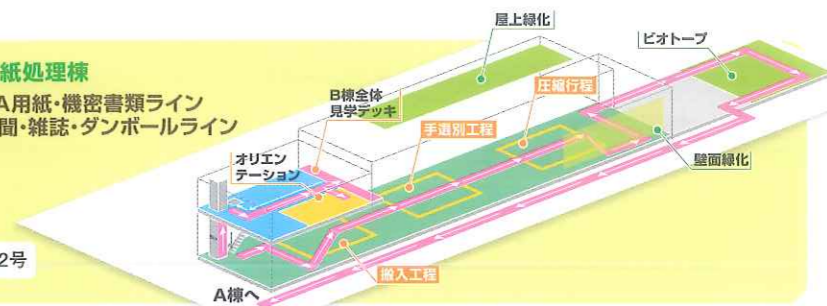


B棟

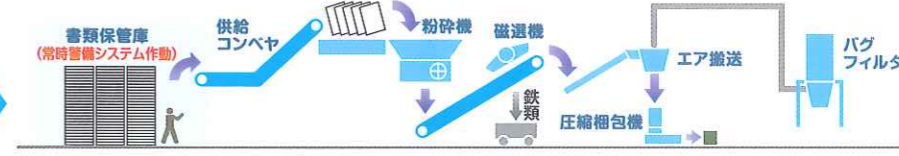
オフィスより排出されるOA用紙や機密書類に加えて、駅の分別ボックスに捨てられた、新聞・雑誌などの古紙類の中間処理(破碎、選別・圧縮)を行っています。

古紙処理棟
OA用紙・機密書類ライン
新聞・雑誌・ダンボールライン

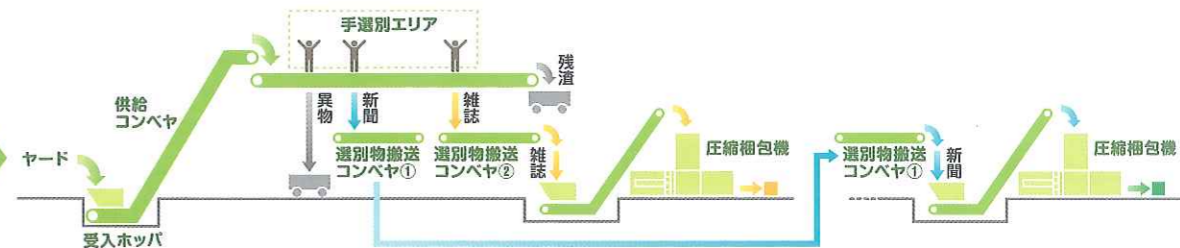
一般廃棄物処理施設設置許可番号 一施第52号



OA用紙・機密書類ライン



新聞・雑誌・ダンボールライン

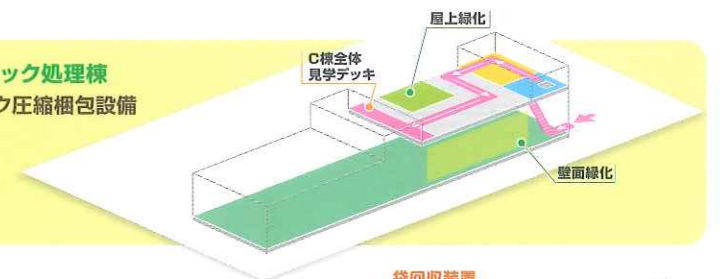


C棟

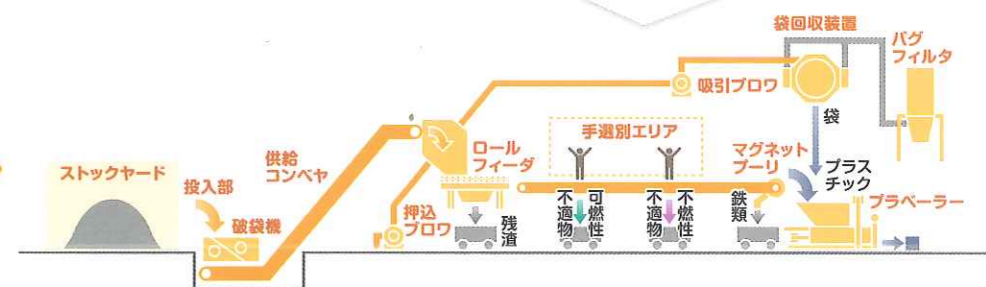
自治体(一般家庭)より排出された廃プラスチックの中間処理(選別・圧縮)を行っています。

廃プラスチック処理棟
プラスチック圧縮梱包設備

一般廃棄物処理施設設置許可番号 一施第52号



プラスチック圧縮梱包設備

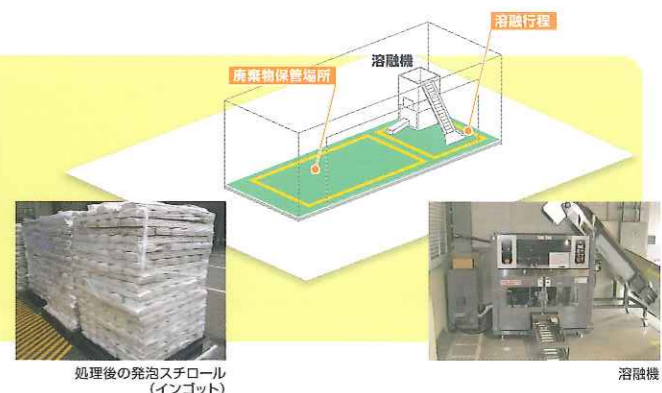


S棟

搬入された廃棄物の一時保管場所としての使用に加えて、商業施設等から排出された発泡スチロールの中間処理(溶融)を行っています。



S棟外観



処理後の発泡スチロール(インゴット)

溶融機

産業廃棄物処分業許可番号 第13-20-000272号

エコ建物を目指す、JR東日本東京資源循環センター

JR東日本東京資源循環センターでは、施設的环境負荷低減にも積極的に取り組んでいます。B棟北側には、メダカやバッタ、トンボなどを育て、野鳥などに休息の場所を与える緑地空間(ビオトープ)を設置しています。また、夏場の冷房負荷を下げる目的で、道路に面するA・B・C棟の東側壁面を緑で覆う壁面緑化を、さらに、B棟・C棟では屋上緑化を行っています。

